

羅針盤

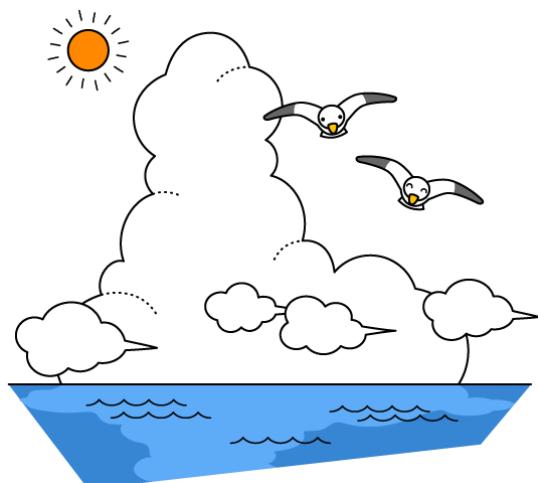


第 15 号

令和4年(2022年)8月25日(木)

◆ 「人に礼法あれば悪事生ぜず」

「人に礼法あれば悪事生ぜず」これは、江戸時代に活躍した儒学者の貝原益軒（かいばらえきん）が残した言葉で、「人の礼法あるは水の堤防あるがごとし。水に堤防あれば氾濫の害なく、人に礼法あれば悪事生ぜず。」から引用されたものです。水に堤防があれば、水による氾濫を防ぐことができるよう、人間にもそうした堤防があれば、問題が起きるのを未然に防ぐことができることを意味しており、そのためには、互いに敬い、自他ともに成長する気持ちを礼法によって表現し、謙虚な言動やマナーを守った行動が日頃から不可欠であることを教えてくれています。「礼法」それは、人と人とをつなぐより良い人間関係を築くための第一歩であることを意味しているということです。1学期の終業式でも話をしましたが、「おはよう」と声をかけられたら、「おはよう」と返す「挨拶」も、より良い人間関係をつくりあげていくためには、とても大事なことです。「親しき仲にも礼儀あり」といった言葉の意味をしっかりと理解し、これまでと同様に当たり前のことが当たり前にできる人として、2学期也有意義な学校生活を過ごしてもらいたいと思います。生徒の皆さんの笑顔あふれる学校が、誰もが安心して過ごせる学校となっていきます。明るく交わされる笑顔の挨拶で、周りの人たちもさわやかな気持ちで過ごすことができる一日となるはずです。そういうことを積み重ねていくことが、すぐには結果としてあらわれなくても、「高い志」を持ちながら、一人ひとりの「夢の実現」につながっていくこと信じています。



◆ 前期の生徒会目標 「4R」

皆さんは前期の生徒会が目標として掲げた「4R」を覚えていますか。「他人を尊重（Respect）し、自分自身をより良いものへと更新（Renew）する。そして、その姿勢を維持（Retain）して、忘れない（Remember）ようにしよう！」という意味で、自分や相手だけに手一杯になるのではなく、自分を含めた全員に気配りができる住中生になってほしいといった願いが込められています。この目標は、これまでに幾度となく生徒の皆さんに繰り返し伝えてきたこととかけ離れたものではなく、これまでと同様に、生徒の皆さん一人ひとりが、今の自分自身が持つ課題と向き合う中で、学校生活で協力関係にある仲間のことを思い、ともに学校生活を過ごす友だちから多くのことを学び、自らの成長を求め、地道な努力を続けることが、何よりも大切なことであると示してくれていると思います。諦（あきら）めない気持ちを持ち続け、その気持ちを忘れることなく、自分自身の力量を日頃から「アップデートしていくこと」が、何よりも大事なことであるということを伝え、何よりも皆の力で、より良い住吉中学校をつくりあげていきましょうと考えられた目標であるはずです。前期の活動を振り返ったときに、その結果が表れるように、努力を積み重ねていきましょう。